

番号	7: 質問・意見	理事会からの回答
1	来年、広島でのG7に向けて活動できるならG7市民社会コアリション2023との連携をぜひお願いします。	ESGウォッチとして広島にむけた活動を8月以降、検討をスタートする予定です。ありがとうございます。
2	<p>"総会開催、おめでとうございます。理事、事務局の皆様、いつもご尽力感謝します。さて今回はこの場を借りて、敢えて活動メンバーではなく、いわゆる一部の"OBOG"の方に意見を伝えたいと思います。まず大前提として、歴代の諸先輩方個人にはリスペクトしかありません。ここ数年でさらにご活躍されているOBOGの方も多く、素敵なお話をもっともっと聞きたいばかりです。...ただしこのかんの「皆さま全体の雰囲気」にははっきり申し上げてがっかりでした。例えば(幹事の皆様には申し訳ないのですが)昨年の30周年A SEED DAYは本当に残念でした。(タイトルに「同窓会」とありましたのである程度は仕方ないのですが)内輪ネタ、過去の栄光、現職の宣伝、あげく政治的活動のオンパレード。入ったばかりの活動メンバーが雑用をさせられてたのが悪い意味で印象的です。今のASJに必要なのは過去を惜しむ/懐かしむだけではなく、前に進む事ではないでしょうか。「レジェンド」の方々だからこそ、現役メンバーにもう少し応援やアドバイスはなかったのでしょうか？さらに話は変わりますが、昨年の総会のコメントだったか何かにも「今のプロジェクトは金融に偏っていて残念」と不平を言ってらっしゃる方がいたように記憶しています。申し訳ございません、個人的には全くもってナンセンスなご指摘と感じました。①まず真面目に応えれば、金融は普遍的・伝統的でありながらそれでいて「最も旬」な課題です。SDGsの全てのゴールに通ずる裏テーマとも言われており、昨今のESG分野に対する社会の関心の高まりも受けてかなり優先順位の高い課題です。②次に、ある種メタ的・打算的に「A SEED JAPAN」のことを考えた場合にも、実はかなり合理的なプロジェクトです。上記のように様々なゴールに繋がる「金融」というテーマを追いかけた際に、その中で事例研究・ケース調査的に新たな社会課題に興味をもつことで、その社会課題への啓発に発展する可能性があります。このかかもウクライナ危機、バイオマス発電の問題点、大阪IRカジノ誘致等、新しい社会課題について議論が進んでいます。「金融」を皮切りに「新しいプロジェクト」が生まれる可能性すらあるのです。③最後に、一番お伝えしたいこととして、敢えて失礼な表現をすれば「じゃあ、自分がやれば？」という事です。一度事務所やオンラインのMTGに参加して、次の活動を考えてみませんか？主導は難しくても、例えばベテランとして現役メンバーにアドバイスをくださいませんか？OBOGの方にとっては「今は(過去の)アシードの活動の先にたどり着いた本業がある」「単純にもう若くない」等という想いがあるのかもしれませんが。ただし、本当にそれは理由になるでしょうか？現理事を見てください。ご存知みつもと</p>	コメントどうもありがとうございます。子育てをしながらも、ESGウォッチのMTGにも積極的に参加して、かつをはじめここ最近入ってきているメンバーに対しても、さまざまにサポートしてくれて大変頼もしく、頼りにしています。専門性の高い投融资のことや、起こっている社会の問題などについて、情報を提供してくれたり、細く説明や資料提供など丁寧にフォローしてくれてありがとうございます。ASJも30年続いてきた中で、たくさんのOGOBの方もいますが、立場や年齢、経験等に関係なく、フラットな関係性で、今後もやっていけたらと思っています。ベテランとか関係なく、異年齢や立場の違いがあるからこそ、互いに学びこともあるので、引き続きよろしくお願いします。

	<p>は、皆さんレジェンドメンバーの活躍を当時から見てきた、もはや彼女自身もレジェンドです。はまこー、みっちゃんだって立派な本業も抱える10年超の大ベテラン選手です。ゆかりんは、まさに上記のスタイルを良い意味でぶち壊して、復活してくださいました。そして何より、新理事かつは、今のアシードを建て直してくれている期待の新時代エースです。...どうか皆さん「口だけ」出すのはやめてください。手か、知識・スキル・コネクションか、金(汚い/安易な意味ではなく、「寄付金」等広い意味を含めて)を出してください。もしお忙しいのであれば、そっと見守っていただくか、応援の一言、少しでも「ポジティブな」メッセージをください。それら全て難しいという方は(組織には怒られるかもしれないかもしれませんが)あくまで私個人としては)脱会していただいて構わないと思っています。もちろん、素敵なOBOGさんもたくさんいらっしゃいます。実際に上記のA SEED DAYでも、休憩時間に現役メンバーのところに駆け寄ってアドバイスをくださる登壇者の方もいました。また直近の『エコ就職・転職サロン』や、『生きる働く企画』等もかなりOBOGの方が助けてくださったと聞いています。本当にありがとうございました。おかげさまでアシードはまた盛り上がっています。オンラインを活用して遠方から参加する方、アシードがお世話になった有識者の教え子の方(いわば第二世代の方)、他NGOと併せて活躍する方や現役高校生の方に至るまで、素敵な新メンバーもどんどん増えています。どうか、どうか今のアシードをよろしく願います。"</p>	
3	<p>助成金が頂けなかった場合、2.5Mの赤字となる見通し。 正味財産を考えると、あと5年は存続可能です。 今、中心となっているメンバーがやりたいことをやりたいようにやって下さい。</p>	<p>チャレンジを続け、安定した財政になるよう努めていきたいと思っています。引き続き応援よろしく願います。</p>
4	<p>今回は参加できず、申し訳ありません。ここ1年、ほとんど参加できずじまいでしたが、新しい活動が動き出し、ASJ再生の芽が見え始めていることは、嬉しく思います。活動体のオリエンも少しずつ増やしているようなので、若い活動会員が今後増えていくのではないかと期待しております。参加できていない私がとやかく言える立場でもないのですが、今回の資料を拝読して思ったこと、疑問点をコメントさせていただきます。無理に答えなくて構いません。事情を知らないOBのたわ言とさせていただいて良いですが、何かしらの気づきのきっかけになるのであれば、幸いです。(1)アウトリーチを強化していくこと、大賛成です。すでに色々の方策を考えておられるとは思いますが、カネとヒトの手当は必要と思います。赤字削減も重要ですが、必要な投資は怠らないようにして頂ければと思います。助成金では賄いきれないものは、会費収入とは別枠の単発寄付を募るのも一案かと。(YouTube機材を強化するとか、あくまで一例ですが)組織面でも、チーム横断的に取り組む体制を作っていくのが良いのではないかと思います。(以前のASJには広報部があったと思います)いまの若者に何が刺さるかは、今年40歳になる私よりも、皆さんの方がお詳しいと思いますが、動画・Podcast・SNSなど、昔よ</p>	<p>コメント、ご意見いただきありがとうございます。(1)情報発信は強化したいと考えており、ぜひ動画などにもチャレンジしていきたいと思っています。専門でできるメンバーはいない状況なので、いい情報などあればぜひ教えていただけたらうれしいです。(2)slackは活動の連絡ツールとして、FBグループは現在の会員だけでなく過去に活動していた人たちも入っているため、ASJコミュニティとしての情報交換の場という位置付けになります。アクティブに運用できていないのが現状ですが、現在の活動の様子などを発信していくことは今後強化していこうという話をしています。(3)現在は、市民への働きかけを中心に行っていますが、今後は投融資の企業への働きかけも視野には入れています。</p>

	<p>り使えるツールは格段に増えていると思いますので、これまでの延長線上にはない、新しい発想でのチャレンジをぜひ。(2) SlackとFacebookグループ、それぞれの狙い・役割分担はどのように考えておられるでしょうか？ 内部向け/外部向けの差はありますが、SNS活用などは前述のアウトリーチ戦略とも重なる部分もあると思います。統合的にできることは、そうした方が良くもかもしれません。(3) ESGウォッチプロジェクトについて、「ESGウォッシュが起きている」という問題意識から出発した活動と思いますが、ESGウォッシュを実際に行う主体(企業)ではなく、市民や金融セクターへの働きかけを重視するのは、どのようなお考えからでしょうか？ いろいろな議論を経て今の形になったかと思うので、どうこうしろという訳ではないのですが、素朴な疑問として聞いてみたいと思いました。皆さんの更なるご活躍を期待しております！</p>	
5	A SEED JAPANがずっと続いていくことを願っております。がんばってくださいね。	いつも応援いただきありがとうございます。
6	皆様の活動の益々の発展をお祈りしております。子育て×環境コミュニティの運営に携わっておりますが、子供たちの未来を考える上でも若者世代の声や活動は大事だと思っております。	いつも応援、ご支援いただきありがとうございます。今年度は、昨年度から動き出している活動を、多くの若者世代に届くよう、広く発信していきたいと思っています。子育て世代も増えてきているので、子育て×環境コミュニティをテーマに場を持つ際には、ぜひ一緒にできれば嬉しいです。
7	はまこー、みつもと、ASJのみなさま、ご無沙汰しています。また新しい一年ですね。やれることをやれるだけ、互いの現場で一步一步積み重ねられれば。	本当に一步一步の、地道な積み重ねだなと思います。
8	なかなか大変な時代ですが、皆さんの市民の活動に希望を感じます！	いつも応援ありがとうございます！
9	がんばってー	どうもありがとうございます！！
10	1 Rio+30に対して何かアクションや議論はあったのでしょうか。②解散に向けたプロセスあるいは任意団体に戻るプロセスは、現時点ではほぼ休止または白紙の状態という印象ですが、会費徴収の停止に関する議論の結論は出たのでしょうか？	①昨年度の30周年企画後に、何度か話し合いの場は持ちましたが、現段階では議論が深まっておらず、具体的なアクションを行う予定はありません。来年のG7に向けては議論をスタートしています。②2020年度総会でディスカッションしたことを受け、その後、理事会等で話し合う中で決めた3ヵ年計画(2021年度～)の今年度は2年目にあたります。3年後の選択肢としては、休止や解散も改めて検討しますが、現段階では活動を展開していく方向で、助成金等の獲得も含めチャレンジしています。会員制度に関しては、昨年度活動が再開したこともあり、一律での停止は考えておりませんが、今後単年度ごとにご判断いただけるよう制度変更を検討しています。
11	■序文 ・前提として、理事会の皆さんが頑張られているということは、認識しています。 ・情報としては、職員として得たものも多分に含まれますが、OBという立場としてコメントさせていただきます。 ・コメントの多くは、理事会ですべき内容かとも思いますが、会員の	感想、コメントいただきありがとうございます。この半年は走り続けてきた状況にあり、①から④のコメントについては、現時点で具体的になってきていることもあれば、まだ議論が十分にできていないこともある状況です。下半期に向けて、本日の総会や理事会等で具体的にしていきたいと思っています。この1年で活動メンバーも増えて、ようやくそう言った議論をできる土壌が整ってきたように思います。今後の方向性については、議論を深めた上で、ご報告、

方々への現状の報告という意味でも書かせていただきました。  
・批判的に捉えられる部分もあるかと思いますが、個人的には、単なる感想・コメントです。

■コメント①

・方向性について

今回「3か年方針」を提示されていました。

2020年度から再出発になり、一步一步進んでいるということだと思います。

ただ、理事会等で、多少お聞きし、その後も読み返し、考え直しましたが、やはり、私には、具体性が分かりませんでした。  
同時に、私の関わりの中では、具体的な形や数字を理事間で話して、認識のすり合わせをしている場面には、出くわしませんでした。  
個々人の中では、少なからず、あるとは思いますが、案としては、端々で聞いているものもありますが。

どのような状態になった場合に、それが解消されたとされるのでしょうか？

つまりは、各理事の認識によっては、既に解消されているものもあるかもしれないということです。

ちなみに、一会員として、3年という期間や数値的な目標が、達成されるかどうかに関しては、私の中では、そこまで拘っておりません。  
別に、企業とは違いますし、ボランティアで頑張られているわけですから、例えば、「3年で目標が達成されなくても、改善傾向であれば、数字の下方修正や期間の延長などをする」ということは、全く問題ないことかと思えます。

『若者活動会員の不在』

・例えば、若者(学生・若手社員人?)の人数が何割になるのもイメージしているのか？

→例えば、若者の定義は、学生と20代前半で、割合が、50%を超えるとかでしょうか？

『活動体の不活性化』

・例えば、チーム数、活動メンバー数、イベント数などでしょうか。

→チーム数の昔の様に5-6を目指すでも良いですし、1つのチームに絞っても良いと思います。

『赤字体質の改善』

共有する機会を設けさせてもらえればと思います。

・まずは、どれくらいの予算規模とか、収支形態にするのかが大事かと思えます。

例えば、2019年度以前の様な(西島事務局長以前など。)フルタイムの有給スタッフを置きながら、ボランティアを活かして、活動を行う形なのか、若しくは、さらに小さな事務局にしていくイメージなのでしょうか。ちなみに、赤字体質自体が根本的な問題ではないと思っています。

#### ■コメント②

3か年計画後の目指す体制が分かりませんが、少なくとも、その3か年の期間は、今の様な体制が続くのだと思います。

理事の方々が、昨年(2021年)度以上の関わりができるのかと言われれば、おそらくは難しいのではないのでしょうか。

むしろ、少なからず、減るという想定で、いた方が無難な気もします。であれば、今ある人手を如何に有効的に活用するのかが、経営的には、必要になってくると思います。

そういった場合、より優先順位や取捨選択が重要になってくるのではないのでしょうか。

やらなければならぬことは、たくさん見えているのだと思いますが、キャンパシティ以上のものに手を出してしまうものだと思いますので。

#### ■コメント③

その中で、できていないこと、十分な人手やスキルを割けていないことも多々あるかと思えます。

そういった、できていないことを責める気は、毛頭ありません。

ただ、できていないことへの認識は、ちゃんと持っておくと、最低限の想定をしておけるのかなと思います。

例えば、鈴嶋さんのSVを濱田さんが行っていますが、十分ではないと感じています。

私が2年間SVを受けてきた中で、彼で良かった部分もありますが、私の雇用形態が歴代の事務局スタッフの中で、非常に特殊だったから、大丈夫だったとも思います。

同時に、そういった技術的な部分もそうですが、一番は、日頃の活動の中で、関わりの深い者がSVをやるとするのは、あまり良い選択ではないのではないのでしょうか。そういった人物に、話し難い物事は、多々あると思いますし、そういった物事が、大事に至ることだと思いますので。

ただ、客観的に見ても、他の適任者がいないことも分かります。

ただ、そういった認識も持っておくことで、想定できる事態もあるの思います。

対策としては、半年に1度くらい、外部の方と話して、状況を確認してもらう機会を設けるなどは、いかがでしょうか。

江口さん辺りでしょうか。もちろん、有料でも良いと思います。

■コメント④

・エコ貯金ラボについて

昨年度は、あまり大きな活動は、できていなかったと思います。

ただ、田川さんが理事に復帰し、プロジェクトを続けたことによるasjへの影響は、大きかったと思います。

もし、継続していなかった場合、実質的なプロジェクトがなかったからです。

ESGもそんなにまだ大したことがなかったですし。

それによって、担保された部分は、大小というか、有無とも言えるものだったのではないのでしょうか。

以上